

総合的な学習の時間 道徳科「思いやり」 特別活動「学校行事」

グローバルマナーで共生の態度育成を

期待できる効果

●こんな子どもの姿を期待できます

- ・挨拶やマナーの重要性に気付き、気持ちよく相手に接する子ども
- ・相手のことを思って、進んで助けようとする子ども
- ・外国の方に対して積極的に関わろうとする子ども

1 おもてなしの心を体験

元国際線CAで「おもてなし学」筑波大学客員教授の江上先生を講師に迎え、グローバルマナーについて学びました。「おもてなし」とは、表裏のない心でお客様をお迎えするという話を中心に、具体的な事例やロールプレイ等を交えながら学びました。おしぼり一つ差し出すにしても日本人の思いやりが表れていること、相手の目を見て笑顔で接することの大切さ、分離礼の演習、ドアのノックは3回以上が基本だということ、グローバルな挨拶である握手の仕方は右手で強すぎず弱すぎず握り軽く振ること、女性か目上の方が先に等の内容でした。今までは、やらされていると感じていた子どもや、挨拶やマナーの重要性に気付いていなかった子どもも、普段から「おもてな

しの心」で相手に接していくことの大切さに対する理解を深め、やっていこうという実践意欲を高めることができました。思いやりの心について学習する際は、実際に接客のプロ等と体験を含めて学ぶと効果的でした。また、道徳科の学習で、DVD「おもてなしの心に学ぶコミュニケーション編」を活用することも効果がありました。この学習の後、事前に意識付けを行った修学旅行では、外国人観光客に対して、「おもてなし」を実践する子どもの姿が多くみられました。



ココがポイントです！

- ①マナーについての専門家の活用で効果が高まります。
- ②学校や地域、子どもたちの実態と学校側のねらいについて、事前にGTと綿密に打合せを行うことが大切です。

おもてなしの心について学ぶ（小学校）



おもてなしの心について学ぶ（中学校）



実践後の子どもの反応

- 今のうちに気配り、心配りができるようになりたいです。（小学校）
- おもてなしとは相手を喜ばせることだと思いました。私もおもてなしの心がある人になろうと思います。（小学校）
- 2020年までにおもてなしの心を身に付けて感謝されるような人になりたい。（中学校）
- 英語が話せるようになってボランティアとして関わりたい。（中学校）

